
負の在り方 3

三木拓矢

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

負の在り方3

【Nコード】

N9228Q

【作者名】

三木拓矢

【あらすじ】

1年 - 13組。

そこには2人の生徒が毎日ふつーに通っていた。

1人は俺。 もう1人は盛岡。

盛岡のことは嫌いじゃねーんだけどな。

(前書き)

ジャンプを読んでふと思った。

蛾々丸君がもし賊刀・鎧を着て空中で衝撃を受けたら衝撃は一体どこにいくのだろうか？

「いやね。僕だつてなりたくて負になつたわけじゃないんだよ？そりゃあちよつとはこの世界なんかさつさと滅んだほうがいいなと思つし、13組の異常者軍団なんかぶつ殺してやるうかと日夜思つてるし、自分は誰にも理解出来ないし自分は誰も理解出来ないと思つし、自分は普通じゃないって思う時もあるんだけどさ。しかしだよだからと言つて13組の異常者軍団をぶつ殺していいわけないし、ましてや世界が壊れればいいなんて決して思つちやいけないんだよ？普通わね。でも僕らは読んで字のごとく負完全だ。だから普通の人間が考えない負の感情こそが普通であり、普通の人が考えることこそが僕らにとっては異常なんだよ。それこそ13組の異常者軍団よろしく異常だよ。だから僕が思うに天童会長は負として異常なんだよね。誰かの上になつたなんて負にとっては致命的とも言える。負としての誇りはないのかと僕はぜひ天童会長の所へ訪ねて訊ねたいんだけどな。でも残念なことに僕はとても恥ずかしがり屋だから天童会長に面と向かつてそんなこと絶対に言えるわけないんだよ。実に悲しい！僕は自分の性格を恨むよ。全く、どこまでも負だから困つたものさ。ねえ、宇和島君もそう思うだろ？」

「頭がおかしいなとは思つたわ」

「うわ、君はたった1人のクラスメイト相手に随分酷いことを平気で言うんだなあ。いいのかな？君のその心無い一言のおかげで僕が不登校になつてしまつたら君はこのクラスに独りぼつちなんだよ？ たつた独りきりなんだよ？……まさか君、独りの方がいいなと思つてないよね？実は独り言が趣味だったりしないよね？ごめん、いくら僕でも独り言が趣味っていうのは少し引いちゃうよ。負だから

って限度つてものがあるだろう。君は変わり者だなあ。……嘘だよ
ウソ嘘そんなことで引いたりはしないさ。正直僕だつてどちらか言
うと独りが好きな身だしね。ああでも宇和島君といるのは意外と嫌
いではないんだよね。なんて言うの？助け合いのない友情？こう、
なんか、お互いに困つていてももう片方は絶対に手を差し伸べるこ
とはない。いいねなんか友情だね。いやー僕そういう青春的な友情
ごっこが憧れだったんだよ。ビバ！友情ごっこ！や、これからも2
人きり怪しく仲良くしていこうじゃないか」

「あー、なあ盛岡」

「なんだいなんだい宇和島君？この『害悪細菌』（グリーングリー
ングリーン）にご用かな？ふむ、それだったら僕に出来る範囲内で
あるならば出来る限りのことはしてあげたいと思っているんだけど、
さてそれでなにかご用かな宇和島君？」

「あんまり喋らないでくれ体がだるくなつてきた……」

「あー、なるほどそんなことか。そんなのお安いご用だよ。友達の
お願いが聞けない僕じゃないからね」

「……」

「あら、こりゃほんとにノックアウトになつちまったのかな？まあ
確かに負と負は相容れないとも言っし。それに僕の負はただその場
にあるだけで周りに影響を及ぼすものだからな。しかも席が隣だか
ら殆どダイレクトにうつけてるだろうに。

このまま会話を続けていたら宇和島君の身が保たないと思うから……
……しょうがない耳栓でも貸してあげよう。いや優しいな僕は。まる
でイエス・キリストの生まれ変わりだ。僕も負中では変わり者の方

だから今回は特別助けてあげるよ？ま、しょうじきこのままで君が意識を失い五感を失い命を失おうとも僕には関係のないことだしめんどくさいなって気持ちもあるんだけど。そこは友情ごっこに乾杯と言っものだね。しかしだからと言って決して善意の行動ではないからね？むしろ悪意と言ってもいいくらいだ。だからここでの耳栓は貸しだよ？後で僕がとても困った時体で返してくれたらそれでいいのさ」

「……」

「ん、ここは？」

（ここは教室に決まってるじゃないか）

「なんで俺は気を失ってた？」

（なんでって僕の負の影響さ）

「？」

（自己紹介の時お互いの負について話したじゃないか）

「あー、そうだったっけか？」

（そうだよ）

「盛岡」

(なんだい宇和島君?)

「ぶつ殺していいか？」

(駄目に決まってるじゃないか)

「だよな」

(うんうん。僕たちは友達だよ？暴力反対)

「よく言うぜ生きてるだけで人に迷惑かけるやろーが」

(それこそお互い様だよ)

「俺のは迷惑かけねーっの」

(君の負は負を否定するような負じゃないか)

「どうせお前しかいねーんだから迷惑もかかんねーだろ。都合のいい友達なんだなら許せや」

(しょうがないな今回だけだよ)

「あーがとよ」

(そのかわりに今度僕のお願ひ聞いてくれよ?)

「簡単なら願ひならな」

これがたった1人のクラスメートっていうな。

なんでこいつと2人きりで授業受けなきゃいけないんだかな。

まあ、性格的には嫌いじゃねーんだけど。

2人じゃなんもできねー。

やっぱふつーにやほど遠いよなあ。

(後書き)

毎度恒例駄文です。今回は今までののなによりも駄文です。
盛岡君の負については兎吊木さんの名をパクリました。
兎吊木ファンの皆さますいません。

この小説を読んでくれた全ての方に最大級の感謝を

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9228q/>

負の在り方3

2011年10月10日00時27分発行